

平成 28 年度 第 1 回児童福祉専門分科会 議事要旨

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 23 日(木) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 静岡市役所 清水庁舎 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者 (委 員) 津富委員(会長)、浅井委員、稲垣委員、今村委員、太田嶋委員、大橋委員、是永委員、酒井田委員、鈴木委員、徳浪委員、戸崎委員、永田委員、錦織委員、長谷川委員、水上委員、宮下委員、望月委員、和田委員
(欠 席) 垣見委員、平岡委員
(事務局) 平松子ども未来局長、深澤子ども未来局次長、山田参与兼子ども未来課長、松永青少年育成課長、伏見子ども若者相談担当課長、安本参与兼幼保支援課長、糠谷参与兼こども園課長、秋本参与兼子ども家庭課長、荒田児童相談所長、高津参与兼教育総務課長、川島学校教育課長、他事務担当者
- 4 傍 聴 者 0 人
- 5 議 題 等 (1) 会長の職を代理する者の指名について
(2) 教育・保育の量の見込みについて
(3) 市立こども園の配置適正化方針について
- 6 報 告 ①待機児童(保育所等・放課後児童クラブ)の状況について
②市立こども園の取組について
③新規参入施設への巡回支援事業について
④静岡市ひきこもり支援センター「DanDan(だんだん)しずおか」開設 1 年目の実績
⑤しずおかエンジェルプロジェクト(結婚支援事業)について
⑥子育て世代包括支援センターについて
⑦静岡市児童相談所統計数について

7 会議内容

■議題 1 会長の職を代理する者の指名について

○津富会長(代理者指名)

平岡委員にお願いしたい。委員の皆様よろしいでしょうか。

○委員一同

異議なし。

■議題2 教育・保育の量の見込みについて

○是永委員（意見）

私立幼稚園の認定こども園への移行について、静岡市では特別な支援は考えているか。また、意向調査を行っているということだが、途中経過はどうなっているか。

⇒子ども未来課

私立幼稚園には、移行の際に事務負担を軽減するために、本市独自の助成を行っている。幼稚園の場合、認定こども園に移行すると、市が定めた保育料を納付いただくことになる。その際、利用者の負担が増加してしまう場合の差額は、在園者に限り、市が特別に助成を行うことによって、利用者の負担が増加しないような措置を取っている。また、意向調査の現在の回答状況については、いくつか回答をいただいているが、まだ検討していただいている最中なので、6月末までもう少し変化があるのではないかと期待している。

○宮下委員（意見）

確保方策の設定の枠の認可定員を超えている私立幼稚園は本当に少ない。現実400という認可定員でも、200程度でやっている。その幼稚園が認定こども園に移行したときに400の定員があるのだから400でと言うことは少し賛成出来かねる。あくまで小学校教育とは違い、幼児教育、幼児保育というところから考えると、やはり適正な大きさの幼稚園、保育園ということが望ましい。認可定員と実際の子どもの差があまりに大きいときに0～2歳児の子どもを含めたなかの今の認可定員の範囲で定めてほしい。保育園、幼稚園関係者に相談していただけると非常にありがたい。

⇒子ども未来課

現在の幼稚園の認可定員を上限とするが、各園が考える適切な教育、保育環境がバックアップできるように現在の利用者情勢も考慮して決定することとしていきたい。各施設の意向等もあるが、こういった点に留意して、配慮しながら、適切な定員を決定していきたいと考える。

○津富委員（質問）

平成24年から28年まで、着実に子どもの数が減ってきているが、平成29年～31年はそれほど減らないという願望が入っているのか。

⇒子ども未来課

合計特殊出生率の目標に合わせた数値になっている。市としては、こういった数値を目標にして、施策を打ち出していく。また、出生率を実現するためにも、保育の拡大を確実に進

めていく。

■議題3 市立こども園の配置適正化方針について

○太田嶋委員（意見）

民営化の担い手が、学校法人や社会福祉法人等、非常に長い伝統と質の高い保育、教育を提供してきた組織で、非常に安心できる。これまで他県の事例でも、多様な保育が保護者のニーズに合い、多くは民営化でいい方向に進んでいくのではないかと考える。ただ、慎重に進めていくことが必要。静岡市の場合は、全て認定こども園になっており、幼稚園を民営化していくときの難しい側面があるのではないかと考える。今後も民営化を担う法人が、質の高い保育を行うことを利用者・地域の人達に丁寧に説明していけば、必ず理解が得られと思うので、積極的に進めていくことを願う。

○水上委員（質問）

前回の議題は、前提条件自体が異なっており、人口の増加は目標値として定める一方、人口は減少するという前提のもと動いているので、矛盾がある。民営化は、統廃合ありきにすると、1つの園の定員を増やさなくてはならなくなる。予算は出来る限り確保し、人口増も含め、質の高い保育環境を確保する方向がよいと考える。

⇒子ども未来課

民営化よりも統廃合の方がより慎重な判断が必要だと考える。計画の見直しについては、計画期間である平成31年までの量の見込みを推計してから検討しようというもの。配置適正化については、計画期間が平成28年度からとなっているが、初めての園廃止は、平成31年度末を想定。量の面でも、各区域の需給バランスを考慮し、廃止については慎重に判断をしていきたいと考える。

⇒子ども未来局長

補足。出生率については、子育て施策の展開等により高めていきたい。静岡市では、人口全体としては減少傾向。子ども・子育て支援の分野では、新しいニーズは日々生まれており、将来的に、子どもの育ちと子育てしやすさが保障される環境づくりをしていくために、この配置適正化を行うべきと考えている。

○大橋委員（意見）

特別な支援を要する子ども達は、1歳・2歳で診断を受けないと福祉施設、発達支援は利用できないため、ドクターもかなり早く診断するという傾向にある。障がい児の場合は私立ばかりではなく、まず公立でみていただきたい。

⇒子ども未来課

障がいのあるお子さんに対する支援は、これまでも公立のこども園を中心に担っており、引き続き、市が担っていく重要な分野であると認識している。一方で、静岡市全体で見ると、障がいのあるお子さん専用の通園施設が少ないという現状もあり、1号の公立こども園での受け入れだけではなく、市全体で通園施設の増も含めて、トータルに対応を図っていきたいと考える。

○長谷川委員（質問）

対象園の決定及び公表について、民営化と同様、対象園を絞っていくときも外部者の意見を踏まえ統廃合していかないと、いい方向には進まないと思う。今後の統廃合・民営化も安心してお子さんを預けられるような形をとるべきだと思う。

⇒子ども未来課

民営化と廃止は、いずれも非常に重い、慎重を期すべき判断であり、その決定までのプロセスを慎重に丁寧にやっていかなければならないと考えている。事前に対象となる園の職員や在園者の保護者、建てる地域の自治会や住民の方に理解を得ながら進め、最終的に公表という形になる。有識者の意見聴取については、ひとつの意見として承りたい。

○今村委員（質問）

民営化について実際にいちばん影響を被るのは子ども達。今までの経験を活かして、スムーズにいくような方向性を出していただきたい。教育・保育のサービス向上で、その施設の状態から転用が可能であれば、空いた保育園を利用すると理解してよいか。障がい児の施設も、いこいの家ひとつしかなく、整備されるべきで、それにより、子育て支援センターを増やすなど要望活動が生まれれば、実施する市・利用者にとってもプラスになると思う。

⇒子ども未来課

民営化、統廃合、アセットマネジメントは、マイナスのイメージがあるが、個別の方針も含め、新たな期待に応えるために必要な事を丁寧に言い、説明を尽くしていきたい。

○和田委員（質問）

老朽化というのは、施設の中のどのくらいの割合で進んでいるか分からない。例えば、建築年が非常に古いところを老朽化が進んでいると考えればいいのか、市は、何%程度老朽化が進んでいると考えているのか。

⇒子ども未来課

建築後 30 年以上経過している園が 60 園中 37 園。1 つの目安として 30 年以上の築年数、それ以外に耐震性能との相関関係を考慮して判断していきたい。

○酒井田委員（質問）

建築後 30 年以上で、一概に老朽化といえないと思うが、老朽化、耐震性を統廃合の対象として判断する考えがありながら、他方の施設から転用が可能な場合は、転用による活用を検討とある。転用にあたっては、耐震補強等を検討するという前提なのか、施設の特質からそこまでの耐震性は求めないということなのか。

⇒子ども未来課

優先順位としては、老朽化が進んだ園を解消し、良好な教育環境を新たに作り上げるのが大前提。実際には、老朽化を優先した結果、期間内には、転用の事例が出ないかもしれない。

○水上委員（質問）

今までの会議の中でも何度も使われているニーズという言葉が、保護者にとってのニーズであり、子どもにとってのニーズと一致しているのか矛盾を感じる。子どもの立場に立って考える視点を明文化してほしいと感じる。

⇒子ども未来課

明文化については、ご意見として承りたい。

○津富委員（意見）

閉園する場合は従事者の就業先、山間地の園の存続をお願いしたい。また、難しいかもしれないが、PFI のような手法や、既存のこども園以外の施設に間借りしていく考え方、横串として、高齢者と子どもが一体化するような手法もひとつの方向性かと思う。

○宮下委員（意見）

特別な支援を必要とする子ども達の支援は、教育委員会に公立の役割としてやっていただきたいとずっと言ってきた。私立は、専門的な知識のある教員ばかりではなく、公立が専門的な教師の雇用により受け入れれば、子どもも本当に心豊かに毎日の生活が出来るのではないか。この適正配置とは別をお願いしたい。

○徳浪委員（意見）

障がいを持つ子ども達の子育ては大変。時代の流れで統合保育があり、健常の子どもたちと一緒にいる事はとても大切だが、子どもによっては、その方が負担が大きい場合がある。

市の新しい方針の中に、公立園での受入れについて改善も求めていただきたい。

○鈴木委員（意見）

年々、加配対象のお子さんが増え、公立ではまかないきれない状態となっている。障がい児の連携に関しては、長い間研修を重ねてきたが、解決は難しい。通園施設の少なさがいちばん大きい。どのくらいの人数が適正か、現状を考えると、どういう方法がいいか難しいところがある。

⇒こども園課

障がいを持つお子さんの数は、今年度4月の時点で、全園で383人。旧幼稚園のこども園で43人。昨年は368人のうち、旧幼稚園のこども園が30人だった。

○錦織委員（意見）

実際の例で、2人子どもがいる家庭の、下のお子さんが障がいがあるようで、今行っている幼稚園への入園の際に、スムーズにいかず大変だったということを知った。障がいを持っているお子さんのいる家庭が安心できるようもっといい方法を考えて欲しい。

⇒子ども未来局長

障がいを持つお子さんを抱える親御さんの選択肢が、非常に少ない状態にあるのは実情。通園施設が圧倒的に少なく、公立園は1クラスに多くの障がい児がいると、統合保育が成り立たなくなる。発達障害の増加傾向については、保健福祉長寿局、子ども未来局、教育局が連携して、重要な需要に応えていかなければならず、必要な施設の増加で、配置適正化の計画を活かしていきたいと考える。

○稲垣委員（意見）

幼小の接続に関しては、スタートカリキュラムで、よりよい学校教育を提供できるように努力しているが、障がいのあるお子さんの早期発見、早期療育により1年生になったときの適応の良さを感じている。遊びの集団から学びの集団になり、その中で、自己表現できるお子さん、保護者に対する理解や支援も進んでいると感じる。幼児期の充実した質の高い保育の提供が義務教育にもつながり、義務教育修了に繋がっていく。幼小の接続が上手くいくと、静岡の未来の担い手を育てることに繋がる。

○浅井委員（意見）

待機児童という言葉だが、実際には待機児童はいなく、待機している親がいるとよく言う。親も安心して働けなければ子どもの幸せはこないと思う。忘れてはいけないのは、民営化、統廃合という話のときに、子どもの幸せを考えるのが大事だということ。幼稚園が、こども

園に移り0～2歳児をみるのも2、3年の準備が必要だと思う。4、5年後を見据え、廃園があったら、その職員を障がい児の園へ回す等、プラス思考で今から探ればいいのではないかな。

- 報告 ①待機児童(保育所等・放課後児童クラブ)の状況について
- ②市立こども園の取組について
- ③新規参入施設への巡回支援事業について
- ④静岡市ひきこもり支援センター「DanDan(だんだん)しずおか」開設1年目の実績
- ⑤しずおかエンジェルプロジェクト(結婚支援事業)について
- ⑥子育て世代包括支援センターについて
- ⑦静岡市児童相談所統計数について

○望月委員(意見)

1点目に子ども食堂。貧困家庭の子どもを対象にということだったが、参加者の集め方などは難しい問題だと思う。企業としてどういうスタンスで臨むか迷う所があり、市でも取組が始まっていないと聞いているが進捗等を聞きたい。2点目は、虐待の問題。学生に聞いた話で、社会福祉施設での体験、相談相手がいない等により、大学進学を含め大変な苦勞をしたとのこと。出来る事があればなんとかかしていききたい。

○戸崎委員(意見)

子育て世代包括支援センターは、市としてもっとPRして欲しい。子ども食堂の件だが、本当に貧困の子どもに食べさせるのか、地域に密着した家庭の食堂にしていくのか、その支援をどうしていくのか等、もう少し自分も勉強して応援をしていきたい。

○永田委員(意見)

待機児童について、求職活動停止中や特定の保育所を希望する場合は含まれないということだが、求職活動を停止というと、保育園の確保ができず、働く時間も確保できない。また、特定の保育所等のみの申し込みについて、就業の状況など予想できず、どこの園でもいいとは言えないと思う。労働者側として、労働環境の整備や早めの帰宅など、男性の家庭参画や女性の短期間勤務の拡充など、もっと広げていくのが大事だと思った。

○錦織委員(意見)

仕事を持っている女性が自分の夫に頼るのがいちばん理想である。企業でも、男性の育児参加等への協力を推進してくれれば、お母さんはすごく助かる。そのような協力をする事をPRすれば、静岡市のイメージアップもできる。父親を含めた家族のコミュニケーションは大事。